

2023 年度愛知県環境調査センター研究発表会  
発表概要

日 時：2024 年 3 月 5 日（火）午後 1 時 30 分 開会

<b>法的規制が河川水質に及ぼす効果の検証に関する予備的研究（13:40～14:00）</b>
<p>河川中の物質濃度は、単純に規制対象事業場からの汚濁負荷量に比例するのではなく、河川流量など様々な要因の影響を受けていると考えられる。</p> <p>本研究では、2006 年に排水基準が規制強化された亜鉛含有量（5 mg/L から 2 mg/L）を例として、河川中の濃度に影響を与える諸要因を精査することにより法令の効果を検証することが可能かを検討したので、その結果について報告する。</p>
<b>油ヶ淵及び周辺河川水質データに対する多変量解析の適用（14:00～14:20）</b>
<p>油ヶ淵は、かつて流域の都市化や閉鎖性水域であることが原因で水質汚濁が進んでいた湖沼であり、水質改善を目的とした取組みが継続的になされている。しかしながら油ヶ淵における化学的酸素要求量（COD）の環境基準値である 5 mg/L（湖沼 B 類型）はいまだ達成されていない。今回、油ヶ淵水質改善の一助とすることを目的として、水質データの構造を主成分分析（PCA）にて明らかにすることを試みたので、その結果について報告する。</p>
<b>三河湾における水質環境の変動に関する研究（14:20～14:40）</b>
<p>三河湾における化学的酸素要求量（COD）濃度の推移は横ばいであり、A 及び B 類型においては、近年、環境基準未達成の状況が続いている。この状況の要因解明に資するため、広域総合水質調査結果を用いて COD やその関連項目の解析を行った。また、三河湾内の六つの環境基準点において全有機炭素及び溶存態有機炭素の測定を行ったので、それらの結果について報告する。</p>
<b>逢妻川における河川マイクロプラスチック実態調査（14:40～15:00）</b>
<p>近年、世界中の海域でマイクロプラスチックが確認され、海洋環境等への影響が懸念されている。河川は海域への主要な流出経路であり、河川中のマイクロプラスチックの実態把握が必要とされている。今回、愛知県内の逢妻川及びその上流の逢妻男川、逢妻女川の 3 河川で、2022 年冬及び 2023 年夏に河川表層水の調査を行ったので、その結果について報告する。</p>

**愛知県内における光化学オキシダント (Ox) 測定値の8時間平均値による評価の試み (15:10~15:30)**

光化学オキシダントに係る現行の環境基準は「1時間値が 0.06ppm 以下であること。」とされているが、海外では8時間平均値による環境基準の設定が多くされており、我が国においても環境基準の再評価に関する議論が行われている。

本研究では、愛知県内における近年の光化学オキシダントの測定値について、8時間平均値による評価を試みたので、その結果について報告する。

**アルゼンチンアリの生息状況モニタリング調査及び防除手法についての検討 (第2報) ~冬季における防除について~ (15:30~15:45)**

特定外来生物のアルゼンチンアリは、愛知県内への侵入が2005年に確認されており、防除が行われているが根絶に至っていない。冬季はアルゼンチンアリの活動が鈍化し、一般的に行われている固形ベイト剤による防除の効果が発揮しにくい。本研究では、冬季における効果的な防除手法を検討し、巣及び女王アリをターゲットとした防除を試行したので、その結果について報告する。

**センサーカメラで観察された海上の森の中大型哺乳類(15:45~16:05)**

海上の森に設置したセンサーカメラにより撮影された画像から、近年の中大型哺乳類の現状や増減、季節、時刻による変化について報告する。